

サヤヒゲシバ *Sporobolus vaginiflorus*

会長 勝山輝男

サヤヒゲシバ *Sporobolus vaginiflorus* は北アメリカ原産のイネ科ネズミノオ属の1年草で砂地や荒地に生える。1986年に在日アメリカ軍の相模補給廠で採集されたのが最初の帰化記録である(大場, 1987)。その後、2002年に相模原市麻溝台(相模原公園)、2014年に座間市小松原(日産跡地)や川崎市多摩区、2015年に相模原市緑区川尻で標本が採集され、神奈川県ではまじわじわと分布域を拡げている。『神奈川県植物誌 2018』の分布図ではこれらの5ヶ所に分布点が打たれている。

麻溝台の相模原公園は在日アメリカ軍の座間小銃射撃場が1969年に返還され、その跡地を利用して1979年に作られた公園である。相模原公園のサヤヒゲシバは相模補給廠周辺から広がったものか、アメリカ軍に関連してそれ以前に持ち込まれていたものかわからない。

最初に記録された相模補給廠周辺では2013年にも標本が採られている。ネットで検索すると、2023年度東京都立大学プレミアム・カレッジ成果発表会で「米軍相模総合補給廠の草地と帰化植物サヤヒゲシバに関する考察」のタイトルの発表があった。発表の内容はわからないが、相模補給廠周辺では今でもサヤヒゲシバが見られると思われる。なお、2014年に相模補給廠の北側の17ヘクタールが日本に返還され、35ヘクタールは共同使用区域になっている。

サヤヒゲシバは神奈川県内では少しずつ分布域を拡げているが、隣接する東京都への進出以外は他県からの報告はなかった。最近、未同定標本の同定作業をすることが多くなっている。今冬は御殿場市など静岡県東部で採集された標本の同定を行ったが、その中に東富士演習場で採集されたサヤヒゲシバの標本があった。東富士演習場は在日アメリカ軍も利用しているので、その関係で種子が運ばれてきたのであろう。

サヤヒゲシバに関する形態の記述は『神奈川県植物誌 1988、2001、2018』のほかには平凡社の『日本の帰化植物』

に少し書かれているだけである。情報量が少ないので、この機会に形態の記述と簡単な線画で紹介しておく。

サヤヒゲシバ *S. vaginiflorus* (Torr. ex A. Gray) Alph. Wood

叢生する1年草。稈は繊細で、基部は少し這い、上部は直立し、高さ20~50cm、葉身の幅は0.5~2mm、葉鞘は膨らんで目立ち、口部は有毛。夏~秋に長さ1~5cmの花序を頂生または腋生し、花序は基部が鞘部に埋もれる。小穂は1小花からなり、長さ4~5mm。第1苞穎は長さ2.8~4mm、第2苞穎は長さ2.9~4.5mm。護穎は長さ3~4.5mm、軟毛が生える。内穎は護穎と同長または少し長く、先が尖り、背面に接近して2脈があり、護穎と同質の軟毛が生える。

文献

神奈川県植物調査会編, 2018. 神奈川県植物誌 2018 上. 902pp. 神奈川県植物誌調査会, 小田原.
大場達之, 1987. サヤヒゲシバ(新称). Fl. Kanagawa, (24): 191
清水建美編, 2003. 日本の帰化植物. 237 pp. 160 pls. 平凡社.

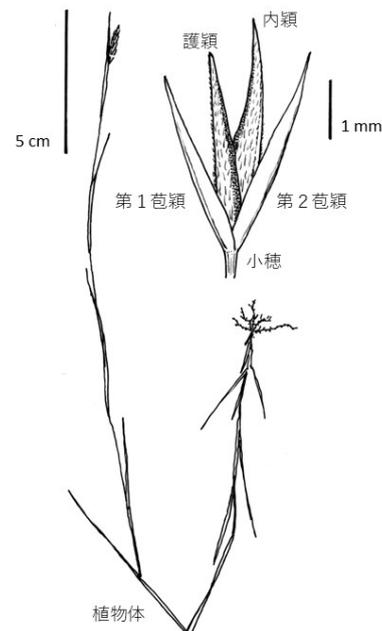


図 サヤヒゲシバ *Sporobolus vaginiflorus*